

投資の初めの試しとて

榎戸材木店
会長 榎戸 正人

貯蓄から投資へと岸田総理は国民に呼びかけています。アメリカでは家庭、個人の保有する金融資産の55%近くが株式や債券などで運用されているのに、日本はわずか16%。ヨーロッパ諸国と比較しても半分程度です。アメリカ人から見れば、なぜ日本の預金金利はあんなに低いのに、銀行に預けておくのか不思議でしょう。

日本人の多くは株などへの投資は値下がりして損をするかもしれない。あれはギャンブルだと考えているようですが、そう言いながら競馬や競輪にハマったり、パチンコ屋に入り浸ったりしている……おかしな話です。

最近は積み立てNISAと言う制度が出来て少ない金額から投資できるようになったため、若者を中心に投資を始める人が増えて来ました。また高校でも授業で金融や投資を教え始めたので、これからは変わっていくかも知れません。総理は就任直後には「所得倍増」と言っていたのに最近は「金融資産倍増」に変わりました。所得を増やすには企業が賃金を上げてくれなくてはならず、今の状況ではとても倍にはならない。でも資産倍増なら可能です。

株の銘柄の中には20%の源泉税を支払った後でも3%以上の配当金を株主に還元しているものも少なくありません。40歳で1000万円を65歳の定年まで銀行に預けても雀の涙ほどの金利しか付きませんが、毎年3%、30万円の配当金を再投資していくと、なんと24年間で2倍になります。

でも値下がりしたらどうするんだと思われるかも知れませんが、1つの銘柄だけに集中投資するのではなく、高配当の優良銘柄を数10社に分散して投資する投資信託がありますので、1社や2社の株が値下がりしてもリスクは分散出来ます。

ただし注意しなくてはいけないのは、外国株に投資すると値下がりのリスクだけではなく、為替のリスクも発生することです。1ドル150円の円安になった時、まだまだ円安は続くと思いアメリカの国債や株を買った人は135円まで円が回復して10%の損失。1000万円の資金は900万円になってしまいます。だから私は為替リスクがある外国株や債券は絶対に手を出しません。買うのは日本の優良企業の株だけです。

以前、アメリカ、カナダの木材を扱っていた頃、為替では損をした経験があるため、トラウマになっているのかも知れませんが。